

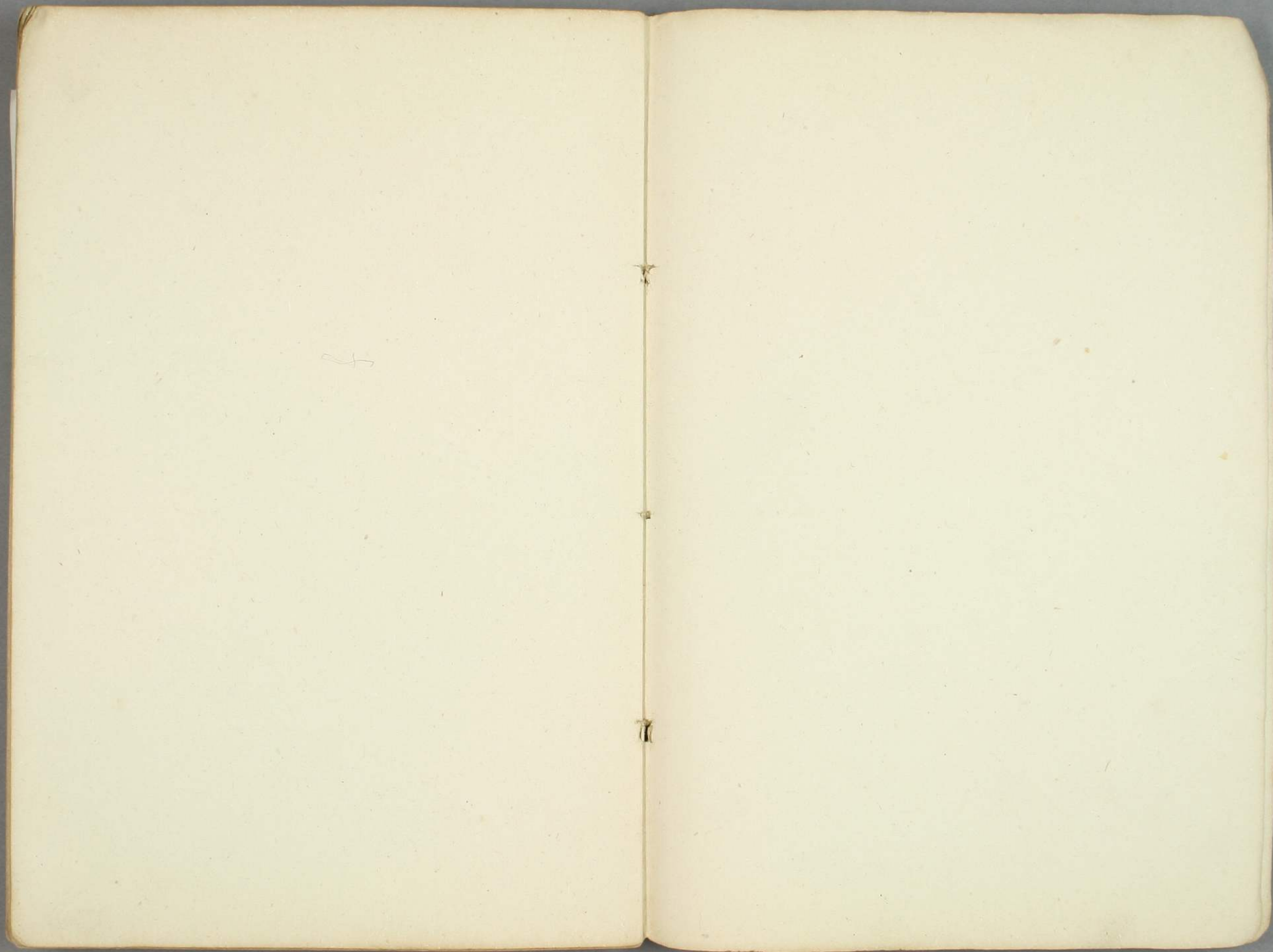
Note Book.

劉
文
藝
思
潮
概
論
之
部

本間文庫
文庫 14
A 112
4



文庫14
A112
4



改訂文藝年表

~~概論~~

~~改訂思想の刻印~~

~~文藝年表の序文の位置を直す事
の
おもしろい事
の
おもしろい事
の
おもしろい事~~

~~やがて直代の全生活の~~



昭和文學史
の

第一、
昭和文學の歴史

~~又藤村~~ ~~生活の~~ ~~関係~~ ~~を~~ ~~述べ~~ ~~た~~ ~~場~~ ~~は~~ ~~喜~~ ~~水~~ ~~の~~ ~~や~~ ~~ま~~ ~~の~~
~~生活の~~ ~~中心~~ ~~に~~ ~~咲~~ ~~か~~ ~~つ~~ ~~花~~ ~~の~~ ~~世~~ ~~代~~ ~~の~~
~~生活~~ ~~の~~ ~~中心~~ ~~に~~ ~~咲~~ ~~か~~ ~~つ~~ ~~花~~ ~~の~~ ~~世~~ ~~代~~ ~~の~~
~~生活~~ ~~の~~ ~~中心~~ ~~に~~ ~~咲~~ ~~か~~ ~~つ~~ ~~花~~ ~~の~~ ~~世~~ ~~代~~ ~~の~~
~~生活~~ ~~の~~ ~~中心~~ ~~に~~ ~~咲~~ ~~か~~ ~~つ~~ ~~花~~ ~~の~~ ~~世~~ ~~代~~ ~~の~~
全文の
総合点
である。

ぬ。人々の生活の最極所に湧く清水と其の
けのりから言ふべきとき、其時代の生活、其時代
の文化が密に之れを味つけしめる。其時代、其民
族が其は其人を離れて文化の無いは無いはあ
る。あやうな意味で其の精神生活には常に建つた
他向の輻 (文化の根本なるもの) 湊してゐる。
式 他向がすなはち其時代、民族、個
人、其の思想である。つまり思想とは其々の生活

の傾向の上をなす他向であつて、之れと其生活
と文化は無意義である。又同即文化、生活、
人生、即文化とは其意味をなしてはなからぬ。其
文化の思想、即文化の思想は其意味である。吾人は文化
の背後に思想をえ、思想の背後に文化生活の全景
を見なしてはなからぬ。
今此の文化の思想を見んとするに當りて、吾人は
其の系統を現代から文化の歴史の期に溯り
せ、更に其の歴史をなすものなり。

初年に尋ね上つて、しちち子大辭の叙述は、
立てたのと云ふ。言ふまでもなく現代の政治思想は
導能である。到底何れ一つを取って全部を代表
せしことこそ、~~の~~ ~~事~~ ~~あり~~ ~~有~~ ~~様~~ ~~を~~ ~~き~~。さきかゝる云
をオフ倒保(ハタタと翔せし行くと、~~段々~~ ~~豊~~ ~~樹~~
~~果~~ ~~然~~ ~~甚~~ ~~大~~ ~~なる~~ ~~の~~ ~~サ~~ ~~シ~~ ~~談~~ ~~話~~ ~~を~~ ~~一~~ ~~に~~ ~~是~~ ~~に~~ ~~是~~ ~~れ~~ ~~を~~
あなた本流と見し、~~の~~ ~~に~~ ~~違~~ ~~し~~ ~~行~~ ~~つ~~ ~~て~~ ~~い~~ ~~き~~。
若くは今やうで~~は~~ ~~是~~ ~~れ~~ ~~を~~ ~~決~~ ~~り~~ ~~数~~ ~~の~~ ~~因~~ ~~果~~ ~~的~~ ~~倒~~

海~~果~~ ~~樹~~ ~~を~~ ~~二~~ ~~つ~~ ~~類~~ ~~一~~ ~~に~~ ~~は~~ ~~く~~ ~~ニ~~ ~~ス~~ ~~ル~~ (Hellenism) を

あり、は「~~フ~~ ~~ラ~~ ~~イ~~ ~~ズ~~ ~~ム~~ (Hellenism) である。
民族

「~~ニ~~ ~~ス~~ ~~ル~~ ~~と~~ ~~ハ~~ ~~事~~ ~~ナ~~ ~~リ~~ ~~キ~~ ~~ハ~~ ~~民~~ ~~族~~ ~~ヘ~~ ~~ラ~~ ~~ス~~ (Hellenism) である。

ギリシア~~の~~ ~~文~~ ~~明~~ ~~に~~ ~~生~~ ~~じ~~ ~~と~~ ~~思~~ ~~惟~~ ~~て~~ ~~あ~~ ~~つ~~

て、之れを代表する文藝思想の産物であるのホーマー

(Hellenism) の叙事詩、ソフィクリズ (Sophocles 496-

405 B.C.)、~~イ~~ ~~ソ~~ ~~ク~~ ~~ラ~~ ~~ト~~ ~~ス~~ (Aeschylus 525-

~~エウリピデス~~ (Euripides 480 B.C. - 406 B.C.)

アリストファネス (Aristophanes 446 - 386 B.C.)

~~アリストファネス~~ (Aristophanes) ~~アリストファネス~~

Phidias 500 - 432 B.C. (彫刻家)

ソクラテス (Socrates 470 B.C. - 399 B.C.) (哲学者)

427 B.C. (アリストファネス) (Aristophanes 427 - 399)

神の扱いなどには外ならない。

ヘブライズはヘブライウ (Hebrew) 再読の文眼を以て

括弧で思案です。其代表的産物として自らに傳は

るものは ~~キリスト教~~ 舊約書 (Old Testament)

が ~~唯一の~~ 唯一の聖書を ~~なす~~ ^{記念} である。従ってその ~~批判~~

は ~~出~~ ^出 ~~キリスト教~~ 其力の ~~生~~ ^生 生々として ~~批判~~ ^{批判} 批判
の展開である。

第二、~~キリシヤ~~ヘブライズムとギリヤイズム

ギリヤイズムとヘブライズムの思惟を既述思惟の
ニ大別源とするは、以二つのもの如何なる特徴を
有し、まゝ如何なる相接觸するに至るか。蓋しヘ
ビニは其傳説なり、神話なりの中に多数の半神
半人的な神を有し、其戯曲の中に莊嚴な富余
観を有し、其彫刻の中に蕭々、冷靜、端素、
明和の趣味を有し、其哲學者の中に理想的、

遺徳的傾向を示し、まゝ知識を主として人
間の現在生活を興味の中とし、或るべく之を
離れまいとする。まゝ知識的人間的現世的な
思想であつて、おのづから科學、技術、法律の方
面に~~進出~~進出を有する。ヒブライズムは之
小に及して宗教を~~其中心とし~~其中心とし、
的~~的~~的、前者は人間の現存性の根とし、後者は人間の未來性の根とする。感情的、神
的、~~的~~的、前者は人間の現存性の根とし、後者は人間の未來性の根とする。的、
が、一はキリシヤの~~神~~神と一はヘブライウムのキリスト教

とて明に相~~対~~
す~~べ~~く
後である。
衝突
は、
ローマの子に
なる帝

らキリストを統~~治~~
例と見~~よ~~す。そのから三百年のあひ、早く目つ
ぶ一方ギリシア文明の遺業を代表するローマの
主権者と一方ヘブライウ文明の結晶たるキリストを
徒とは絶えが~~持~~ 政權の争ひに對す、壓

10と~~11~~
形で
のな~~い~~コンスタンチン
(Constantine) 帝の家に

キリスト教に歸依し、
を~~つ~~いご、ジュリアン (Julian) 帝が再びキリスト教
を~~絶~~
し、
た~~ら~~で、
の世紀

ヨーロッパの中心はキリスト教の歴史に
に反映せよ。このことは、
の歴史はキリスト教の歴史に外ならない。
ヨーロッパの歴史はキリスト教の歴史に外ならない。
ヨーロッパの歴史はキリスト教の歴史に外ならない。

高木三史の歴史を材料としてある
な近世の歴史はキリスト教の歴史に外ならない。
の歴史はキリスト教の歴史に外ならない。
の歴史はキリスト教の歴史に外ならない。
の歴史はキリスト教の歴史に外ならない。

を中 ~~キリスト教~~ の歴史を材料としてある
を中 ~~キリスト教~~ の歴史を材料としてある
を中 ~~キリスト教~~ の歴史を材料としてある
を中 ~~キリスト教~~ の歴史を材料としてある
を中 ~~キリスト教~~ の歴史を材料としてある

Thron of Lords) と呼ぶキリスト教の歴史を材料としてある
Thron of Lords) と呼ぶキリスト教の歴史を材料としてある
Thron of Lords) と呼ぶキリスト教の歴史を材料としてある
Thron of Lords) と呼ぶキリスト教の歴史を材料としてある
Thron of Lords) と呼ぶキリスト教の歴史を材料としてある

2 解り方に論じてる。この解りにあつた
 1911年 (1911年) の出来事について
 著者の見解を述べた。

(三, XXVII) (三, 31) (三, 32) (Conclude the arg. here. 6)

1911年 (1911年) の出来事について

"The Death of the Gods" (The Death of the Gods)

Fore-runner "Peter and Alexis" (Fore-runner "Peter and Alexis")

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

1911年 (1911年) の出来事について

見し之を~~め~~描い~~く~~のひき~~。~~

最後が「ローマとパレスチナ」はローマのローマ大帝

の手に成~~ニ~~果~~の~~交錯を~~見~~こ~~の~~せ

る¹³²は「イグゼシ」の時代劇「Emperor and Galilean」(Emp. trans)

を~~め~~「Emperor」で~~め~~「Galilean」の「神々の死」を

同じ~~め~~時代を~~め~~こ~~の~~る^①「イグゼシ」の~~め~~

他~~め~~の~~め~~「イグゼシ」の~~め~~「Caesar」

[Faint handwritten notes on the left page, mostly illegible due to fading and bleed-through.]

左に成り立ち且た栄えしつゝこゝろ。従つて知識よりも~~の~~之の信の感情を先にし、文藝は概の自由な大膽な~~の~~發展は見とれなくあつた。其上北方の層日本命の民族は盛に南を下し東つて既成の文化を蹂躪すし、彼小島に~~の~~周里時代を形づくりに至る。所謂の~~の~~さ小島時代には文藝の概の大なる~~の~~無いと

言つてよい。よ小が十二世紀頃から自然の勢として再び知識の光りを~~の~~種々の事情に依り~~の~~荒しかげこましく。言ひかくれば且倒せよと~~の~~こゝろの再び回轉して来たつてゐる。之は~~の~~文藝復興期の端緒である。其の近世の端緒である。前年蓋し中世の民族的大変動の時代である。是れがリニア、その文化に~~の~~家ちかつてきた北方の

民族が、南方の天竺と接觸し、
今昔時代である。今日、フランス、ドイツ、

~~イギリス~~ 民族基礎の結束

は、^{ルン}時代である。而して、民族の中心

は、~~イギリス~~ ~~フランス~~ 民族である。之が早く

西ヨーロッパの諸国は、セルト (Celts) 民族と

合して、今日のフランス、~~イギリス~~、中央ヨーロッパ

は、純粋なドイツ人である。更に、西の

分、合しては、イギリス人とあつてゐる。而して

の、ケルトの民族の思想感情が、~~存在する~~



ハットウラ

族と合して、~~イギリス~~ 中世文明の感化を蒙つて

ゐる。其最著しい例は、夫のゴシック (Gothic) の

趣味と呼ぶべきである。ゴシックは、即ち

~~ト~~

(90)

民族の意味で

~~ト~~

4th - 1st 民族の中心を代表するものと

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 民族の意味を

同じにする。 ~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

ト 4th - 1st 歴史

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

同様に、~~ト~~ ^{断片的に} 同様に 4th - 1st 歴史に

要素の豊厚なる其の著しいものかの

~~Chanson des Roland~~

~~Chansons de~~

~~Geist~~

之類、此中 Chansons de geste を中心として

Chansons des Roland の 2 冊の 1 冊

~~北極星~~ ~~トイッ人~~ の 2 冊に 1 冊を 1 冊として

~~Eda da / Saga~~ の 1 冊に 1 冊を 1 冊として

Eda da / Saga の 1 冊に 1 冊を 1 冊として

Eda da / Saga の 1 冊に 1 冊を 1 冊として

Eda da / Saga の 1 冊に 1 冊を 1 冊として

Eda da / Saga の 1 冊に 1 冊を 1 冊として

④建築の中心はエジプトからギリシア、ローマ
アからローマと傳へて、~~ルネサンス~~ルネサンス
ルネサンスのキリスト教の勢力の下に、~~ルネサンス~~ルネサンス
~~ルネサンス~~ルネサンスのキリスト教の勢力の下に、~~ルネサンス~~ルネサンス
ルネサンスのキリスト教の勢力の下に、~~ルネサンス~~ルネサンス
ルネサンスのキリスト教の勢力の下に、~~ルネサンス~~ルネサンス
ルネサンスのキリスト教の勢力の下に、~~ルネサンス~~ルネサンス
ルネサンスのキリスト教の勢力の下に、~~ルネサンス~~ルネサンス
ルネサンスのキリスト教の勢力の下に、~~ルネサンス~~ルネサンス

を發揮して来たのである。その時々の大
築はローマの~~ルネサンス~~ルネサンス
Renaissance かのやうな、東洋の~~ルネサンス~~ルネサンス
Byzantinum の花を、~~ルネサンス~~ルネサンス
Byzantine かの
の~~ルネサンス~~ルネサンスの~~ルネサンス~~ルネサンスの
の~~ルネサンス~~ルネサンスの~~ルネサンス~~ルネサンスの
の~~ルネサンス~~ルネサンスの~~ルネサンス~~ルネサンスの

せいのがこにのりまがヤリシテから付くも様かの上にトトのあの純念を如く
ちつ子クク~~の~~も其基礎として成る

~~い~~の味の加はたしのが種々のチーとチ族

のらに花を...之を強弱して強い味と弱い味と *Gottlieb*

~~建~~第一と第二の併し其種い味はのち

中か更に茶を...今日の生活ゴシックで

アーチの位...併し之を強弱

ゴシック式...建...塔といふ

尖つてアーチを...向上する

方を示して...自由な、活字に富む

心持を...「...」

~~中~~ *Pygmalion* 文と *Galicia* 文

前として...の文の骨部は東ア

~~中~~ *Pygmalion* ...は時代の文

心持を...の特色

はへりウ原流で... 十ニニ世に... 直知化... 奇思... つまみ... 櫻井... 来り...

の性... イシ... の矢... 近世... 先づ...

旧稿... Criminals Softening of Lines

St. John's Nat. Museum & the other parts of the
School & Italian School (the other parts)
Bryant's

R. 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

(the other parts of the school & Italian School & the other parts)
Numb. & the other parts

1000 — Petrona, B. Baccaris, Plauer
5000

Roll of Const. Antiquary (1450-1455)
Grandpander (1450-1455)

Compass

Printers (1450?) John Gutenberg

lived at Strickling

Innsbruck & other in some places

1211 1212 1213 (1214 1215)

Leonardo da Vinci

1216 1217 1218 (1219 1220)

1221 1222 1223 (1224 1225)

1226 1227 1228 (1229 1230)

1231 1232 1233

以下全て

白紙

